

東京の街を探検しよう —自分の視点で調べ、考える—

長田 紀子

科目名：日本語で東京探検

レベル：初級1・2／中級3・4・5／上級6・7・8

履修者数：35名

1. 授業の目的

このクラスでは、東京の街の中で興味を持ち、行ってみたい場所について調べた後に、実際に行ってみる。主な目的は日本の社会、文化に対する理解を深めること、及び、調査、レポート作成、発表の基礎的な技術を学ぶことである。

2. 授業の内容と進め方

このクラスでは、概ね次のように授業を進めている。

- ①東京の街で訪問してみたい場所を、クラスで6か所選ぶ
- ②興味のある場所ごとにグループを作る
- ③その場所に関連したことで自分の興味のあるテーマを、各自決める
- ④テーマについて調べる
- ⑤レポートを書く
- ⑥レポートの内容をクラスで発表する
- ⑦各場所を全員で訪問する

発表と訪問は隔週に行う。ある場所を訪問する前週に発表を行い、その場所やそこに関係することについて知識を得たり考えたりしてから訪問する。

今までに訪問した場所の例は、以下の通りである。国会議事堂、東京地方裁判所（傍聴）、浜離宮庭園、靖国神社、皇居（皇居内、東御苑）、谷中銀座商店街、ジブリ美術館、原宿、明治神宮、築地市場、高円寺商店街、新宿御苑、NHKスタジオパーク、上野公園、日本武道館、サントリービール工場、アフガニスタン大使館等。

3. 授業で重視していること

この授業で特に気をつけて指導しているのは、調査のテーマの決め方と、レポート作成である。テーマを決めるにあたっては、「その場所の外面的な様相」のみを調べるのではなく、「その場所に関係のあることで自分の関心のあるテーマ」を選ばせるようにしている。例えば国会議事堂の場合、建物の面積、構造などではなく、日本の政治に関することや、また建物の歴史からどのようなことが分かるかを調べるようなテーマである。また、レポートは単なる情報の羅列ではなく、自分の考えや判断を入れて書くように指導しており、報告文や感想文ではなく、内容、形式共に小論文に近いものを書かせるよう心がけている。

その結果、学生はその場所自体の様相にとどまらず、日本の社会や文化についてより深い発見ができるようになる。以下は、実際に学生達が選んだテーマの数例である。

谷中銀座―「工芸文化の保存と地域おこし」「野良猫との共存」

国会議事堂―「日本と台湾の議会制度の違い」「日本国憲法～第9条の解釈」

浜離宮庭園―「日本の伝統的な庭園と西洋の庭園」「日本の茶道と韓国の茶道ブーム」

皇居―「天皇制を廃止すべきか」「天皇の後継者問題」

ジブリ美術館―「スタジオジブリとディズニー作品の相違」「ジブリ作品の女性像」

東京地方裁判所―「死刑制度の是非」「日本の裁判員制度」

4. 学生の気づき、学び

学生たちは1 & 2章で述べたように、多様な角度から訪問先に関する知識を得たり考えたりした後、実際に訪問する。訪問先は6か所だが、クラス全員の発表を聞くので、自分で調べたことに加え、様々な気づきや学びが生まれる。日本の社会、文化のみならず、日本との比較で自国の社会、文化についてもより深い理解に至る場合もある。さらに、「死刑制度は必要か」など、人として生きる上での普遍的な課題についての気づきや学びも生まれる。

5. 日本武道具ブドウショップ

毎学期、最初の訪問は池袋の「日本武道具ブドウショップ」という店に設定し、オーナーのKさんの「日本の刀」をテーマとしたワークショップに参加させていただいている。これは当クラスのために開かれるもので、学生たちは実に多くのことを学ばせていただいている。



図1 日本武道具ブドウショップ前で

実物の刀に触れるなどの体験を通して、日本の鉄、冶金技術の特徴や、武器ならびに工芸品としての日本刀について学び、さらに「元さや、反りが合わない、つばぜり合い、トンチンカン」といった刀から生まれた日本の言葉の意味についても学ぶ貴重な機会となっている（図1参照）。

6. 今後の課題

学生たちは毎学期、よく努力し、興味深いレポートを書いている。しかし、中にはインターネットの情報のつなぎ合わせのみでまとめたり、大学生としては物足りないテーマを選ぶ者もいる。授業を通してより深い学びに導くことができるよう、さらに工夫を重ねたい。

（おさだ のりこ、早稲田大学日本語教育研究センター）